

認知症でも安心して暮らせるまちを目指して



タッチパネル式「物忘れ相談プログラム」を設置しました

▼問合せ 福祉グループ ☎079 (435) 2361

認知症とは？

認知症とは、いろいろな原因で脳の機能が徐々に損なわれていく状態をいいます。

もの忘れが始まると、「もしかして認知症？」と心配になります。加齢に伴う「もの忘れ」と認知症の「もの忘れ」は違います。体験の全部を忘れてしまうような場合は、認知症の可能性がります。



厚生労働省によると、65歳以上の高齢者の4人に1人は認知症またはその予備軍と推計されています。

認知症は特別な人に起こる他人事ではなく、誰にでも起こりうる脳の病気です。

認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、認知症を正しく理解して、身近なものとして考えてみませんか。

年相応のもの忘れ	認知症のもの忘れ
体験の一部を忘れる	体験の全体を忘れる
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人や誰なのか分からない
何を食べたかを思い出せない	食べたこと自体を忘れる
ヒントがあると思い出せる	ヒントがあっても思い出せない

早期発見が大切！

認知症は早期に発見して、適切な対応や治療を行えば、改善したり、進行を遅らせることができます。

●認知症は早期に受診することで

- ① 症状が軽いうちから今後の準備をすることが出来ます
- ② 治療により改善する場合があります
- ③ 進行を遅らせることが可能な場合があります

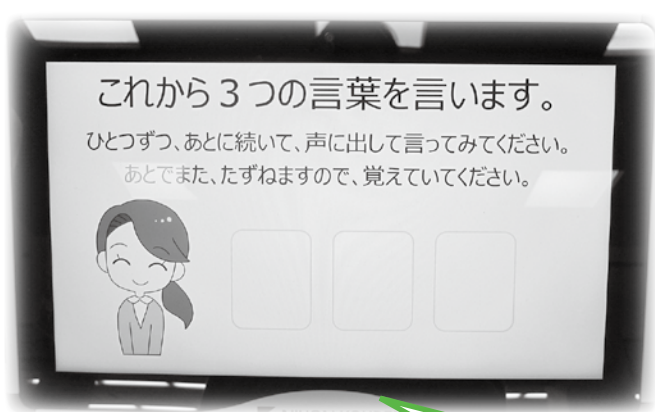
②治療により改善する場合があります
正常圧水頭症など、原因となる病気によっては早期発見・早期治療により改善する場合があります。

③進行を遅らせることが可能な場合があります
アルツハイマー型認知症では、薬で進行を遅らせることができると言われています。

そのため、本人だけでなく、家族や周りの方の気づきが何よりも大切です。

タッチパネル式「物忘れ相談プログラム」を設置しました！

認知症の早期発見と早期治療の重要性と認知症を正しく理解してもらうために、町内の7カ所にタッチパネル式の「物忘れ相談プログラム」を設置しました。出題される問題にタッチパネルで答えるだけです！



所要時間は約5分。気軽にセルフチェックできます。あなたと共に何十年も働いてきた「脳」の健康チェックをゲーム感覚で、してみてください。ご自由にお使いいただけます。

電話相談窓口

- もの忘れコールセンター
#7070・#7272 (月～金曜日 ※通話料無料)
- 県民総合相談センター
☎078 (360) 8477
・認知症の人と家族の会による相談 (月・金曜日)
・看護師などによる相談 (水・木曜日)
※時間帯は10:00～16:00 (祝日、年末年始除く)

家族の会

認知症の人を介護している方や支援者が、気兼ねなく悩みを話したり、相談したり、情報交換できる場を提供しています。

▶日時 毎月第2土曜日 13:30～15:30
▶場所 福祉しあわせセンター 1～3階

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターは認知症を正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守る応援者です。播磨町では、平成27年3月までに、730人のサポーターが誕生しています。講座修了者には、認知症サポーターの証であるオレンジリングが授与されます。

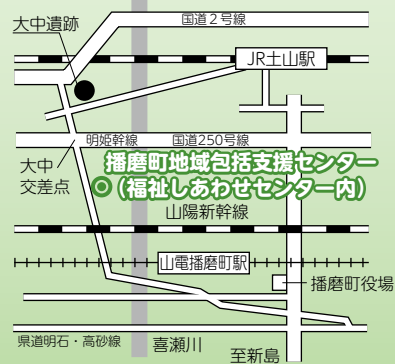
▶内容 認知症の知識と認知症の人への接し方
▶受講方法 地域や団体、グループを対象に、講師を派遣します。詳しくは播磨町地域包括支援センターへお問い合わせください



ひとりで抱え込まず地域包括支援センターにまず相談を...

地域包括支援センターは高齢者やそのご家族の相談窓口です。些細なことでもかまいません。認知症のこと、介護や福祉など何でもご相談ください。専門職員が対応いたします。

▶問合せ 播磨町地域包括支援センター ☎079 (435) 1841



▼設置場所
役場第一庁舎、中央公民館、東部コミセン、西部コミセン、野添コミセン、南部コミセン、播磨町地域包括支援センター
(播磨町福祉しあわせセンター内下記地図参照)

認知症の人、家族を支えるために

▶問合せ 播磨町地域包括支援センター ☎079 (435) 1841

認知症になると記憶力が低下したり、今まで出来ていたことができなくなったり、仕事や生活に支障がでできます。

多くの認知症の人は、思っていることをうまく人に伝えられず、もどかしい思いをしながら生活しています。不安や戸惑いが強くなると、周囲に負担をかけるような行動を起こしたりすることもあります。

しかし、認知症の人は記憶力が低下しても感情は豊かです。周りの人が認知症という病気を正しく理解して、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば、認知症になっても住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らす」ことができます。